

## 令和3年度第2回障害者支援センター運営委員会議事録

■開催日：令和3年11月29日（月）14時～16時

■場所：横浜市健康福祉総合センター9階 901・902

■出席者：委員総数17名中15名出席

茨木委員長、井上委員、野々垣委員\*、松島委員、渋谷委員、大友委員、山田委員、熊坂委員、長谷山委員、下山委員、谷口委員、早坂委員、室津委員、小久保委員、川島委員（\*オンライン参加者）

（オブザーバー）

横浜市2名（障害施設サービス課：高橋課長、福祉保健課：松島係長）

■欠席者：永田委員、笠原委員

■次第

〔知久事業推進課長〕

○人事異動紹介

障害者支援センター職員の異動について報告

○オブザーバー参加者の紹介

○定足数を確認し、運営委員会の成立を報告

〔内嶋センター長〕

コロナ関係で横浜あゆみ荘が大きな影響を受けた。ようやく人出が戻りつつあるが、海外からまた新しい変異ウィルスのニュースがあり、胃が痛い。本日は円滑な議事進行をよろしく願います。

— 以降、委員長が議事進行 —

〔茨木委員長〕

久しぶりに対面で会えて、嬉しく思っている。新しい変異株が出ており、心配であるが、何とか無事に来年を迎えたいと思っている。本日も活発なご意見を出していただきたい。

1 協議事項

(1) 機関紙「お元気ですか」リニューアルについて

〔田中支援課長〕

資料1に基づいて、機関紙「お元気ですか」のリニューアルについて説明。

〔茨木委員長〕

一番大きな変更点はカラー印刷にすること。その結果として、発行回数・ページ数を減らし、絞った形での発行になるという説明があった。事務局案へのご質問・ご意見等いかがか。

〔渋谷委員〕

2ページ減るが、具体的にどのあたりを絞っていくのか。

〔田中支援課長〕

イメージとしては、例えば、これまでは事業計画、進路研究成果等を紙面で報告していたが、詳細はホームページを見てもらう等で内容を絞り、必要な情報を載せていくことを今のところでは考えている。

〔井上委員〕

文字を今より大きくすると、さらに情報量が減るのではないか。

〔田中支援課長〕

かなり情報量は少なくなってしまうと思うが、読み物として必要とされている情報はきちんと残しながら、ホームページ掲載とのメリハリをつけていきたい。ルビを振ってほしいというご意見もある。次回、運営委員会で紙面のイメージを出していきたい。

〔井上委員〕

簡素化されすぎるのではないか。もう少し回数かページ数を増やせないか。

〔田中支援課長〕

全体の経費とのバランスもあるので、もう少し何とか情報量を増やせないか、検討させてほしい。

〔茨木委員長〕

他にはいかがか。

〔熊坂委員〕

リニューアルの話を会員にしたところ、いつになるのかとのことだった。令和5年度の3月とは言わず、もう少し早くならないか。

〔田中支援課長〕

200号に合わせたリニューアルを想定し、検討してきた。皆様のご意見をもとにしたく、早めに提案し、時間を設けている。皆様と納得できるものを作りたく、このスケジュール感になっている。3月発行予定を少し早めることは可能かも知れないが、200号を早めることは要検討か。新しくするにあたり、事務局も業者も不慣れな点があるので、199号の後、少し長めに校正の時間をいただいている。そちらを少し前倒しにできるかどうかだと思われる。

〔茨木委員長〕

一般版とわかりやすい版を作るのは厳しいか。

〔田中支援課長〕

その点も事務局の中で検討した。わかりやすい版は、お知らせ等、周知をする場合によいが、機関紙のような読み物では、作る側の難しさ、チェックの必要性に加え、情報量もさらに減ってしまうので、まずは案のように考えていきたい。わかりやすい版の記事をホームページ掲載で試してみる等、検討していきたい。

〔茨木委員長〕

ここで協議事項(2)に移らせていただく。それでは、事務局よりご説明いただきたい。

## (2) 障害者支援センター在宅障害児者福祉基金の運用について

〔知久課長〕

資料2に基づいて、障害者支援センター在宅障害児者福祉基金の今後の運用について説明。

〔茨木委員長〕

ご質問・ご意見等いかがか。

〔委員一同〕

意義なし。

〔茨木委員長〕

ここで報告事項(1)に移らせていただく。それでは、事務局よりご説明いただきたい。

## 2 報告事項

### (1) 令和4年感謝の集いについて

〔知久課長〕

資料3に基づいて、令和4年「感謝の集い」の開催内容について説明。

〔茨木委員長〕

ご質問・ご意見等いかがか。

〔委員一同〕

質問・意見なし。

〔茨木委員長〕

他に報告事項はあるか。

### (2) その他

〔田中支援課長〕

前回、運営委員会の際に、大友委員より精神障害の分野についても、障害者支援センターとして3障害

含めた支援をしてほしいとのご意見をいただいた。その後、健康福祉局と市精連と調整をしながら、地域活動支援センターの精神の作業所型の補助について、障害者支援センターの方でできないか、今検討が始められている。まだ、決まったことは何もないので、資料はないが、横浜市から精神の作業所型に出している補助を障害者支援センターから行うということが実現できるか検討している。障害者支援センターの課題としては、今の作業所型に行っているような、職員が入り込んだ支援をどこまでできるのかが挙がっている。どこまでが必要なのか、どこまでできるのかということも含め、検討を進めている。

〔茨木委員長〕

どういう形でできるか検討いただいて、運営委員会に案として出してほしい。

### 3 その他

〔茨木委員長〕

その他について何かあるか。

〔吉崎横浜あゆみ荘所長〕

飲食業、旅館業は全国的に苦労している。まさに横浜あゆみ荘でも、去年は緊急事態宣言で臨時休館をしたり、今年も9月に新規予約を停止するなど低迷していたが、その中で利用促進策をたくさん行ってきた。その中で、ホームページの改訂や地区センターのワクチン接種会場での割引券を作った。利用者の回復に取り組んでいるところではあるが、その中でホームページに動画を作って載せたので、皆様にご覧いただきたい。

(横浜あゆみ荘 PR 動画視聴)

このような動画を作ってお客様をお迎えするよう頑張っている。実際にホームページをご覧になったり、インターネットで予約ができる「じゃらん」にもエントリーし、11月に入ってから8名程の予約をいただき、だんだん戻ってきている状況である。直近でも、修学旅行で学校が来ており、相模原、鎌倉、川崎の学校が戻ってきている。ぜひ皆様を含め、周りの方へもPRして利用を勧めていただきたい。

〔茨木委員長〕

ご意見等いかがか。

〔松島委員〕

洋室が1部屋2～3名になっているが、3名とも車いすで利用が可能かどうか。確認して、行くかどうか検討したいと思っている。

〔吉崎横浜あゆみ荘所長〕

洋室には補助ベッドも入れてベッドを3台入れられるが、コロナ禍で人数制限を行っている。旅館の新しいガイドラインが最近出て、それをもとにどうするか今検討中になっている。

### 〔茨木委員長〕

どうしても介助が必要な車いすの方は密が避けられないということで、今すぐにとという利用ではないが、今後ぜひ車いすの方が集団で利用できる検討をお願いしたい。

予定されている本日の内容は以上であるが、委員の皆様から何か報告、情報共有したいことはあるか。

### 〔谷口委員〕

2つ資料を配布した。1つは障害福祉の未来を考える集いで、毎年、活動ホーム連絡会、グループホーム連絡会、市作連の3連絡会で実行委員会を作り、障害者週間の時に集まってアピールをしてきた。準備の段階で、今年もコロナで集まることは難しいだろうと、動画を作った。12月6日(月)朝9時から配信になる。チラシは案内になるので、皆様にも見ていただき、広めていただきたい。動画は去年も作ったが、多くの方に見ていただくところまでできていなかったの、チラシを作成した。今年は30回という記念すべき年なので、皆さんから集めた言葉で「手と手」という歌を辻香織さんに作ってもらった。

もう1つは、きょうされんのカレンダーを紹介したい。ぜひよろしくをお願いしたい。

先日、ニュースになったコミュニケーションカードの紹介もしていただきたい。

### 〔田中支援課長〕

9月に岩崎学園からコミュニケーションカードのアプリができたと連絡があった。セーフティーネットプロジェクト横浜が作成したコミュニケーションボードをアプリにしたもの。完成したことを岩崎学園が9月29日に記者発表した。

詳細は、今年度開催予定のセーフティーネットプロジェクト横浜で岩崎学園から報告してもらう予定。一部、使い勝手の課題もある。まだよくしていきたいと学生は話していた。ぜひ皆様もダウンロードして使ってほしい。

### 〔茨木委員長〕

他に情報提供等あるか。

### 〔知久事業推進課長〕

配布チラシを説明。

○バリアフリー能(横浜能楽堂主催、3月19日開催)

○当事者団体部会作成リーフレット「自分らしく生きる福祉社会をめざして」(会員の入退会をシール修正)

次回の令和3年度第3回運営委員会については、3月22日(火)午前10時から、会場は8ABで予定させていただきたい。また改めてご案内させていただく。

### 〔茨木委員長〕

今日、今年最後の厚生労働省の社会保障審議会の障害部会が行われており、育成会、アメニティフォーラム、DPIが合同で意見書を出している。中身は、地域支援についてで、なかなか入所施設から地域へということも進まないし、家族が抱えている地域生活というところからもなかなか変化がない。この10年、実

は、脱施設化のスピードも落ちている。入院者の状況もあまり変わっていない。国連の障害者権利条約を日本が批准してから初めての審査結果について、1年間遅れたが、来年の夏に委員の方達が来日して意見を。一番問題になるのが、入所者の数が減っていないこと。出て行っても新しい方が入って来て、地域生活がなかなか実現しない。精神科病院の入院率も減っていないことが指摘されるだろう。それを解決するために提案書としては、基金を募ってでも、地域生活支援を充実させる制度を、とりわけ過疎地域も含めて、全国できちんとできるように地域生活支援重点5か年計画というような政策を打ってほしいと今日の審議会に提案がある。その中で検討されているのが、コーディネーターの存在で、一人の大人として地域でどう暮らしていくか、施設の人がコーディネーターではなく、地域の側にコーディネーターがいて、支援していく仕組みが大事だと提案書に書かれている。横浜がこれまでやってきた自立生活アシスタント事業等様々な先駆的な取り組み、横浜の実践をブラッシュアップしていく必要がある。

グループホームの位置づけも変わりつつあって、通過型グループホームや大規模グループホームは20人まで可能とする案が国から出されている。運営委員会でもきちんと守ること、大事にすることを言い続けていきたい。

### 〔室津委員〕

通過型グループホームは障害が軽い人は通過、重い人は通過できない人達という案。障害によって住み方が違うという、そもそも総合支援法の目的にも反する提案が行われている。社保審でとりあえずは止められているが、まだどうなるかわからない。一人暮らしをしたい人達がグループホームを通過して、一人暮らしができるようになることが目標だと言っている。通過したくない人はどうするか。そもそも通過先で支援が足りないからグループホームにいるしかない。通過先のことを充実せずに、通過だけさせるおかしな話である。これまでも通過した後の支援が十分ではないので、戻ってきてしまう。そのことを反省することなく、新しい通過型の話が出ている。多くの団体の意見が反対でほぼ一致していると思う。

もう一方で、一人暮らししたい人達をどうするか。横浜の場合は、グループホームをつくるハードルが高いので防ぐことができているが、支えきれないから出て行ってくださいという悪質なグループホームが増えていく。その辺を含めて、グループホームをどう支援していくか考えていく必要がある。

このことについては、県が充実した内容の検討をしている。検討会でも知的障害の当事者がかなり発言し、知事も最後まで出席して聞いていた。横浜でも市長に聞いてもらいたい。県のホームページにも載っているのでぜひ見ていただきたい。

### 〔内嶋センター長〕

長時間の審議、ありがとうございました。最後に重い話が出ている。通過型グループホームについては課題が多いと認識している。国はよく通過型を作るが、通過させた後が問題。共生、多様性は、きれいな言葉ではあるが、地域で様々な方が生活できるということが実現しない限りそれはないと思っている。

来年は色々な活動が再開される可能性が高いと思うが、精一杯頑張りたいので、ご協力をお願いしたい。あゆみ荘もどうぞよろしくお願ひします。

### 〔茨木委員長〕

皆様から他になければ終わりとしたい。